

TOPICS

第16回全国河川愛護団体交流会開催！



第16回全国河川愛護団体交流会 福島大会が、福島県水環境団体交流会との共催で平成28年11月12～13日にかけて6年連続清流日本一「荒川」で行われました。遠くは山口県、愛知県、東京都、新潟県、宮城県、岩手県、そして福島県内各地から大勢の方の参加がありました。

11日は吉井田学習センターで、柴田俊彰氏による「荒川ものがたり」と題して基調講演が行われ、その後、各団体による事例発表が行われました。12日は荒川(霞堤、地蔵原堰堤、大暗渠等々)の案内を我々会員が行い素晴らしい荒川を満喫してもらいました。次年度は山口県で行われる予定です。



平成28年度主催・共催事業報告

あらかわ自然楽校

学習会 荒川・桜づつみ公園 8月6日(土)

自然に親しみながら・水質検査と水生生物を観察しよう

とても暑い日でしたが、元気な子供7名、保護者3名の計10名で実施しました。

暑い中、網とバケツを持ち、一斉に川に入って虫取りを始めました。だんだん楽しくなって、キャッキョと声を出して魚を追いはじめ、虫も捕れました。

パックテストで水質検査の仕方と学んだ後、水生生物の名前を調べ、古荒川の水質が解り、満足して帰っていききました。



探訪会 荒川流域の歴史探訪 6月11日(土)

探訪会のテーマは「荒川流域の歴史探訪」で、第一回の講師は柴田俊彰先生で、座学では、現在までに発掘調査されている荒川流域の遺跡(縄文時代～平安時代)が、配布資料とパワーポイントで紹介されました。この中には、自宅のすぐ近くにある福島市内では最古の古墳であるという「稲荷塚古墳と八幡塚古墳」も含まれておりました。

また、縄文時代の遺跡に詳しい方、座学でお話のあった「愛宕原遺跡」と「大平・後関遺跡」の現地を案内して

頂き、両方ともに山と川に近い生活に便利な場所であることを確認でき、宮畑遺跡同様に、縄文の人々が生活していたということが納得できました。

フィールドワークでは、「旧寛家宿店」、「水天宮の碑」、「室石」、「鍵合内、前の板碑」、「菅原神社と溝口大明神・板碑」を説明して頂きました。

今回の勉強会を通じて、荒川の流域には多くの遺跡や史跡があることを改めて認識し、これらをうまく組み合わせれば、フィールドワークの良いコースができると感じました。

荒川クリーンアップ大作戦

5月28日(土)

10月15日(土)

午前7時から荒川沿川7カ所にそれぞれ集合し開催いたしました。今年も多くのお客様や地元の方々に参加していただきましたことに感謝申し上げます。6年連続水質日本一もこのような活動の積み上げから達成できたものと思います。今後も続けてまいりますのでご協力をお願いいたします。



荒川にサケの稚魚放流

12月26日(月)

福島市八木田橋付近でサケの稚魚2000尾を放流しました。これは阿武隈川漁業協同組合のご協力で実施しているものです。会員や地元住民約50名が参加しました。皆さん一匹一匹を掌に乗せて、心を込めて放流していました。この稚魚は荒川から阿武隈川に出て、太平洋を北上し、ベーリング海を回遊して4年後にまた荒川に遡上してくれるものと思います。



外来植物調査および河川パトロール

八木田橋～信夫橋間の外来植物の分布調査と月一回日曜日の小富士橋～信夫橋間の河川パトロールを行いました。夏はアレチウリの方が同じつる性のクズより勢いがあるのですが、晩秋になると枯れてクズの方が目立つようになります。また、その頃になるとセイタカアワダチソウの黄色い花が目立つようになります。調査地全域に広く分布していました。

河川パトロールは2人1組で、河川の利用状況の記録とゴミの回収等を行いました。



荒川フェスティバル 5月7日(土)

荒川フェスティバルが5月7日荒川河川敷及び桜づつみ公園で開かれました。荒川づくり協議会も風づくり教室を開き、多くの親子が参加し、空高く舞い上がる風に、喜びの声と笑顔で会場内を駆け回っていました。

また、会場の舞台では芸能まつり、河川敷でのフリーマーケットや各種コーナーでの展示などがあり、多くの市民が荒川の自然に親しんでいました。



視察交流研修会

三春ダムと須賀川浜尾遊水地 6月14日(土)

三春ダムは、大滝根山を源流とする大滝根川に田畑の灌漑、生活、産業を支える多目的ダムとして平成10年に完成しました。さくら湖をめぐる春田大橋を中心にすばらしい景観にめぐまれ、施設を散策しながら多くの人達に親しまれております。管理事務所の方に普段見ることのできない、ダムの底や裏側まで案内を受け、ダムの持つ役割を教えていただきました。

また75ヘクタールという広大な敷地に阿武隈川の洪水時に一時的に水をため込み、川の水を減らして洪水を防ぐ「浜尾遊水地」も見学しました。



安積疏水探訪記「一本の水路」 9月1日(土)

「猪苗代湖ハ安積平野ニ水ヲ引クタメニアルヨウナモノダ…」とファン・ドールン。安積疏水の完成によって「安積三万石」から「安積三十万石」へと急発展を遂げた郡山市。「一本の水路」が①農業を発展させ②発電を行い③工業を発展させ④重要な飲料水となっています。まさに先人の知恵と勇気と努力によって得られた「宝の水」です。私たちの誇り「日本一きれいな川・荒川」もストーリー性をもたせて語り継ぐことが大切ではないかと思いました。



NEWS

ふるさとの川荒川 水質日本一6年連続

ふるさとの川荒川が、2015(平成27)年の水質調査の結果、6年連続で水質日本一に輝きました。これは東北では唯一、また、全国でも3河川しかない快挙でした。当会では定期的な河川パトロールなど、河川環境の保全に努めております。水質日本一は多くの皆様方と共に活動してきた成果の表れと感謝しております。

助成金に感謝

今年度、次の3団体様より活動助成金をいただきました。森林教育学習の備品購入、広報誌発行、環境保全活動に有効に使わせていただきます。会員一同感謝し御礼を申し上げます。ありがとうございました。

- ◆(一財)福島県林業会館フォレスト助成事業
- ◆福島信用金庫助成事業
- ◆ふくぎんみんなのサポート市民活動助成事業

